

令和 7 年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立皆生養護学校

中長期目標	自己の生き方を探求していく人の育成 ～すべての人が自分らしく輝いて生きる 社会づくりを目指して～	今年度の 重点目標	① 主体的な学びの実現 ② 地域社会で豊かに生きる学びの実践 ③ 安心・安全な学校体制の構築 ④ 分担と協働による学校運営
-------	--	--------------	--

年 度 当 初						評 価 結 果 ()月		
学部・分掌	評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
幼稚園・ 小学部	①主体的な学 びの実現	①主体的な学びの実現 に向けた、授業力の向 上	・昨年度、自立活動の指導 において学習グループで流 れ図を作成し、指導内容決 定までのプロセスについて 共有を図ることができた が、授業改善までには至ら なかった。	・自立活動の指導の において、個々の実 態把握、ねらいを明 確にした具体的な指 導の実践や評価を行 い、指導の工夫や改 善を図る。	・外部専門家等の指導助言及び活 用シートを活用し、学習グルー プ間で情報を共有する。 ・自立活動部等と協働しながら、 自立活動に係る研修を開催する。			
	②地域社会で 豊かに生きる 学びの実践	②身近な人と共に活動 できる力の育成	・昨年度の学部研修で実際 に行っている授業をキャリ ア教育系統表で振り返り、 幼児児童の未来について考 えることができた。	・幼児児童の未来に 必要な力をグルー プ間で共有し、授業が 展開されている。	・教師間の情報共有、学部研修を 実施する。 ・身近な大人や友だちとの関わり を広げ、個々に応じたコミュニ ケーション力を育てるため、体験 的な学習を設定する。			
中学部	①主体的な学 びの実現	①生徒の興味関心を学 びの入口とし、自ら進 んで取り組もうと思え る授業づくり	・昨年度、生徒の情報共有 や学習計画の検討に使える ように、学部の時間を調 整したり、定期的に学習グ ループの会をもてる時間を 確保したりすることがで き、有効であった。 ・生徒が「わかった」「ま たやってみたい」と感じら れるような授業づくりに取 り組んだ。この取り組みを 振り返り、今年度の授業づ くりで取り組みたいこと について検討し、学部内で共 有を行った。	・生徒のつぶやきを 大切にし、疑問や気 付き、興味関心を学 習の中で活かした授 業づくりをしている。 ・	・受け身でなく、生徒自らが取り 組みたくなるような学習を目指 し、自己選択・自己決定の機会や 興味関心のあること、生徒自身が 抱いた疑問や気付きを学習に取り 入れる。 ・チームとして生徒の教育にあた れるように、学習グループの会の 時間を確保し、情報の共有や検討 できる時間を確保する。 ・生徒に対し、学習アンケートを 年2回（前期・後期）実施し、授 業づくりにフィードバックする。			
	②地域社会で 豊かに生きる 学びの実践	②自分なりのコミュニ ケーション手段で他者 と関わり、他者に受け 入れられたり、他者を 受け入れたりして関わ ることの良さを感じら れる活動の充実	・近隣の中学校との交流が 再開したり、地域の方と交 流したりする機会があった が将来へ向けて広げたり深 めたりしていく必要がある。 ・	・自分なりのコミュニ ケーション手段をもち、他者と関わり 合うことの良さを感じ られる活動を行っている。 ・	・学部内の他のグループや、他学 部と生徒同士が関わる機会を設け る。 ・生徒の既存のコミュニケーショ ン手段を把握、共通理解すると ともに、コミュニケーション手段の 多様性を広げる。 ・生徒に対し、学習アンケートを 年2回（前期・後期）実施し、授 業づくりにフィードバックする。			
高等部	①主体的な学 びの実現	①主体的な学びを引き 出す授業づくり	・自分の思いを自ら表現す ることに学習の中で取り組 んでいるが、受け身になる 場面も多くある。様々な場 面で「自分から」「やっ てみよう」という気持ちを高 め、社会参加につなげたい。 ・	・生徒が主体的に学 ぶ姿をグループ等で 共有し、それを引き 出すことを意識した 授業づくりをしている。 ・	・個々の生徒が主体的に学ぶ姿に ついて、学習グループで話し合う 機会を設定する。 ・主体的な学びに向けた効果的な ＩＣＴ機器の活用について学部研 修を実施したり、目的や効果を共 有する時間を設けたりする。			
	②地域社会で 豊かに生きる 学びの実践	②社会とつながる学び の充実	・昨年は新たに高等学校と の交流及び共同学習を実施 し、生徒全員が他校と交流 する機会をもった。目的の 明確化や計画的な実施が必要 という教職員の声が多く 挙がった。	・他者や社会とつな がる学習において、 目的を意識して計画 したり学習したりし ている。	・見通しをもって取り組めるよう に、早めの計画や職員への周知、 計画的な事前事後学習を実施す る。 ・教職員間や生徒との対話を通し て、交流学習の目的や内容、方法 について、検討・共有する。			
教務部 教務課	①主体的な学 びの実現	①主体的な学びを実現 するための教育課程の 編成	・重複障がい学級の2つの 類型を1つに統合し、医療 的ケアの内容を教育的に捉 え、自立活動の時間が充実 するように教育課程の編成 をした。これらの評価・改 善をするだけでなく、今後 も子どもの主体的な学びが 実現するように、改善すべ きところは改善していく必 要がある。	・子どもの主体的な 学びを実現するため の教育課程を編成し ている。	・課内で、どのような視点で教育 課程の改善を図るのか、各学部 にどのように伝え、何を検討する のか、教育課程検討委員会で 何を協議するのか等を共有する。 ・教育課程検討委員会では協議 事項を明確にし、助言を受けて 決定事項と各学部で協議するこ とを整理する。 ・「個別の指導計画作成につい て」「評価について」等の研修 を行うとき、これらが教育課程 の編成につながることも伝え、 意識を持てるようにする。			
	④分担と協働 による学校運 営	④教務関係業務のス ムーズな推進	・教務課内で大切にしてく れた「早めに周知をする」 「事前にどんな準備をし て、会では何について話し 合うのかを視覚的に提示す る」を、今年度も大切に し、より分かりやすい発信 をしていきたい。	・教職員が見通しを 持って業務を進めて いる。	・課内で、いつ何を全体周知す るのか共有する。 ・担任が、見通しを持って担任 業務を行えるように、早めに且 つ視覚的に、することを提示す る。 ・全体周知するときに、するこ とをワンペーパーにまとめる・ 色分けをする・マークをつける 等の工夫をする。 ・長期休業中は会の設定を工夫 し、見通しを持って新学期の 準備を進めたり、休暇を取りやす くしたりする。			
教務部 学校行事課	①主体的な学 びの実現	①行事を通して人との つながりを感じたり、 もてる力を発揮したり できるような環境づく り	・職員アンケートでは皆生 スポレク祭と皆生・ブライ ト・フェスティバルで、人 とのつながりが感じられた と、高い肯定的評価があっ た。行事において、目指す 子どもの姿「つながろう、 つたえよう、やってみよ う」により近づくために、 環境づくりを意図的に仕組 む必要がある。	・幼児児童生徒が、 行事を通して人との つながりを感じたり 自分の持てる力を発 揮したりできるように 環境を整える。	・皆生スポレク祭、皆生・ブライ ト・フェスティバルでは、いろ んな人と触れ合う場面を意図的 に設定し、学級や学部の枠に囚 われことなく、お互いに伝え 合い、かわり合う場を仕組む。 ・各行事の目標やねらいを明確 にして、見通しをもって計画で きるよう配慮したり教職員に呼 びかけたりする。 ・わくわく体験、芸術鑑賞教室 では、五感に働きかける活動 を設定する。			

様式 3

教務部 情報機器管理課	①主体的な学びの実現	①ICT機器の有効活用の推進	・教育活動や校務においてICTを活用できるように、機器の整理整頓・整備、フォルダ階層構造の再構築とデータベースの改善を進めてきた。 ・ICT活用に関して、掲示板、研修、書籍の紹介などでの情報発信や提案を行ってきたが、自立活動部やインクルーシブ教育推進部と連携することで、子どもたちの主体性を引き出し、可能性を広げるためのICT機器の活用が期待できると考える。	・ICT機器を活用することで期待される効果についての発信やICT機器の整理整頓・整備がされており、教育活動でICT機器を活用することが増えている。	・ICT支援員との連携を高め、教育活動に関わる情報共有を図る。 ・教育活動におけるICT活用で期待される効果について、定期的に情報収集と発信をする。 ・自立活動部やインクルーシブ教育推進部と連携を図り、ICT機器を効果的に活用できる機会を設定する。 ・ICT機器の利活用について、定期的に活用状況や課題を確認することで、今後のICT機器の利活用に活かす。			
	①主体的な学びの実現	①情報提供の工夫	・自立活動をはじめ、学習支援に関する教職員の要望が多岐にわたる。「身体へのアプローチ」は、依然として要望が多い。	・自立活動部から発信する情報が、実践で抱える課題の解決に役立っている。	・研修の日程や内容、開催方法の工夫 ・教材の整理 ・研修動画や教材の情報等提示の工夫			
自立活動部 学習支援課		①自立活動における専門性の向上	・教職員の多岐にわたる要望に応じるため、分掌内で専門性を維持していくことが必要である。	・自立活動の専門性向上のために、各部署が年3回以上情報発信する。	・外部専門家の有効活用 ・部会の時間を利用してケース検討会等を実施 ・自立活動夏季研修会の実施			
	①主体的な学びの実現	①自立活動の「流れ図」を活用した授業づくりと授業改善	・昨年度、自立活動の「流れ図」をグループで作成することを通して、作成手順については周知できた。しかし、それらを活用した授業づくりや授業改善については、実践を重ねながら研修を深める必要がある。	・流れ図を活用して、根拠に基づいた実践ができています。 ・PDCAサイクルを循環させた授業改善ができています。	・流れ図の考え方や作り方についての基礎研修の実施 ・幼児、児童、生徒の実態等を共有しやすいグループ編成の工夫 ・各グループのファシリテーターとの情報共有と、協議が円滑かつ深まる工夫 ・各グループ1回以上の公開授業の実施 ・外部アドバイザーの有効活用。			
支援部 進路指導課	②地域社会で豊かに生きる学びの実践	②地域社会で豊かに生きるための進路指導の充実とキャリア教育の推進	・キャリア教育や進路指導についての理解が進む一方で、教職員の中で経験の有る、無しで二極化が現れ始めている。 ・現在の取り組みが将来のどのような姿につながるかのイメージが具体的でない。	・教職員が将来の豊かな生活について考える機会に参加している。 ・研修会や学習会などで教職員が意見を交換している。	・卒業後の生活のイメージが深まるように、卒業生や関係機関の事例を学ぶ機会を設定する。 ・研修会や学習会など、教職員が学び合う機会に意見交換の場面を設定する。			
支援部 生徒指導課・	②地域社会で豊かに生きる学びの実践	②家庭や地域と連携した継続的な支援	・昨年度、個別的教育支援計画の活用について呼びかけたが、まだ有効な活用ができていないという意見も上がっており、活用についてはまだ課題がある。	・教職員が、個を語る会や懇談で個別的教育支援計画の検討や修正を行い、サービス担当者会や支援会議等で目標や支援内容を確認したり確認したりしている。	・個別的教育支援計画の定期的な検討や修正の時期に呼びかけを行い、活用の場面（指導計画・授業計画の検討時、サービス担当者会、現場実習打合せ、学びの場の検討時等）で目標や支援内容を確認したり反映させたりするよう適宜伝える。			
インクルーシブ教育部 交流教育課	②地域社会で豊かに生きる学びの実践	②地域社会において本校の子ども達のことを知ってもらうための交流及び共同学習の実践	・学校間交流や出身地域校交流など交流する機会が増えてきている。地域での交流も少しずつだが増えてきている。さらに地域の方々に本校の子ども達のことを知ってもらい理解につなげるために、地域での交流を推進していく必要がある。	・地域の方々に皆生養護学校の子ども達のことを知ってもらう機会や交流を増やすための工夫を考えたり、取り組んだりすることができる	・共生社会を意識した交流活動を推進できるよう、交流の意義を教職員に研修等を行い意識を高める。 ・地域での交流を推進するため、『皆生交流人材バンク(仮)』を作成したり、子ども達の実態に合わせて学習に地域の方をゲストティーチャーとして招くなどの活用方法を考えたりを各学部で行い共有を行う。			
	①主体的な学びの実現	①社会参加につながるICT機器の活用の推進	・eスポーツ、視線入力等のICT機器の自主研修を行ったり、皆生スポーツ広場主催のeスポーツ交流会を行ったりしていく中で、WECルームを利用する子ども達が増えたり、ICT機器を活用し授業に取り組んだりする教職員が少しずつ増えてきている。	・子ども達の社会参加につながる視点で、ICT機器の活用（例えば、視線入力を使い他校と交流をしたり、自己選択する学習にICT機器を活用したり等）を行うことができる。	・子ども達の社会参加につながるICT機器の活用の推進について、自立活動部や情報機器管理部などと協力体制を作る。 ・社会参加につながる視点でICT機器を活用し授業を行っている事例紹介を行う。			
人権・福祉教育部 インクルーシブ教育部	①主体的な学びの実現	①人権教育を通じて育てたい資質・能力を育むための職員の教育力の向上	・職員アンケートでは、「職員の人権意識を向上させる必要がある」という意見が複数あった。近年の社会情勢の変化を踏まえ、様々な人権課題に触れ、職員の授業力を向上させる必要がある。	・研修や様々な人権課題に触れることが、子どもの興味・関心を引き出す授業作りに役立っている。	・ここ数年取り扱っていない、主体的な授業づくりに向けたテーマで職員研修を実施し、視野を広げる。 ・コンプライアンス研修等と連携して、発信・啓発していく。			
	②地域社会で豊かに生きる学びの実践	②社会参加に向けた、育てたい資質・能力の育成	・職員アンケートでは、「人権教育年間指導計画を担当が作成し、級外が目にしたりと共通理解したりすることがない」、「「育てたい資質能力を年間を通して意識するために、確認する機会を定期的にもっては」という意見があった。	・一人一人の幼児児童生徒の育てたい資質・能力を教職員で共通理解して、年間取り組むことができる。	・人権教育全体計画を教職員に周知し、学校教育全体で人権教育に対する意識を高め、教育実践につなげる。 ・個を語る会、個別の指導計画検討会等の機会に、人権教育年間指導計画の確認や意見交換の場を設け、目標設定から評価まで関わっている教員で共通理解する。			
保健安全部 保健指導課	③安心・安全な学校体制の構築	③関係者間でのスムーズな連携	・医療的ケアやその他疾患による配慮、安全上の配慮が必要な幼児児童生徒が多く在籍しており、対応も個別性が高く、安心安全のために確実に行う必要がある。そのために連携や相談が日常的に必要である。	・医療的ケア等の配慮が必要な幼児児童生徒の対応が関係者と円滑にできている。	・日常的に保護者や教職員、必要に応じて学校医や医療機関と幼児児童生徒の様子や医療的ケアについて情報共有する。（口頭、基本台帳、紙ベースにて） ・個別の緊急対応マニュアルやチェック表等の作成を関係者で行い、随時点検や修正をしながら共有し、より安心安全をめざす。 ・学校保健委員会を参観日に設定し、保護者参加を広げて本校の学校保健について啓発を行う。 ・学校医や専門家による職員研修を行い、理解を深める。			

様式 3

給食指導課 保健安全部	②地域社会で豊かに生きる学びの実践	②インクルーシブフード啓発への取組	・食育だよりの発行や学校給食週間での取り組みにより、食育への関心が高まってきている。 ・校外学習等で食形態について外部の方に説明し協力を依頼するが、説明に時間がかかる。	・教職員がインクルーシブフードについて知り、良さや啓発の意義を理解する。	・職員から聞き取りやアンケートを行い、外部に食事を依頼する時に課題となっていることを整理し、周知する。 ・アンケートを受け、外部に説明する際に活用できる映像資料の作成を行う。 ・職員で視聴した後に、再度アンケートを実施する。			
安全教育課 保健安全部	③安心・安全な学校体制の構築	③発災時や事後対応の整理	・発災時、発災後の対応がケースによりさまざまで、確認に手間取り、すぐに行動に移しにくいことがある。	・発災時、発災後の対応が、わかりやすく、行動に移しやすいものになっている。	・発災時等の諸対応を整理し、常時可視化できるようにする。 ・訓練等を通して、対応の見直しと改善をはかる。 ・危機管理マニュアルの改訂を行う。 ・外部専門家から助言をいただき、改善をはかる。			
総務課 総務部	④分担と協働による学校運営	④分担と協働による学校運営・働き方改革	・声を掛け合って年度始の業務をしており協力的な雰囲気である。 ・時期や業務によって時間外が多くなる教員がいる。	・自己や周囲の働き方を意識して、80%以上の教職員が具体的な改善に取り組んでいる。	・衛生委員会を活用した働き方の分析と取り組みの発信 ・働き方を考える話合いの実施 ・勤務実績入力をとおした自己の働き方の確認と改善			
事務部	○その他	教育資源及び環境の適切な整備	・特色ある教育活動の支援、施設・設備の老朽化による修繕の必要性または安心安全な教育環境の整備のため、中長期的な計画が必要である。	・主体的な学びの実現のために必要な教育資源（人・もの・金）を効果的に調整・調達する。 ・安心・安全な教育環境となるよう施設・設備・教具の整備及び維持・管理を行う。	・予算状況について複数で執行管理し、教職員へ定期的に情報提供を行い、早期に事業効果が発揮されるよう計画的に執行する。 ・施設修繕については、教育委員会で策定された長寿命化計画に併せて、学校内で課題を整理し、優先順位をつけて予算要求する。			

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し
 〔100%〕 〔80%程度〕 〔60%程度〕 〔40%程度〕 〔30%以下〕